



横浜市立城郷小学校  
明治33年6月創立

# 学校だより

めざす子ども像

令和5年11月21日

12月号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆

## 手を取りあって

校長 さんべい あつし 三瓶 淳

先日、「暑い夏から一気に冬になってしまったようで、過ごしやすい秋が短いね〜。」と校長仲間と話題になりました。衣替えするにも悩んでしまう方も多いのではないのでしょうか。

さて、3日文化の日に「しろさとフェスティバル」が4年ぶりに開催されました。当日は、天候にも恵まれ、陽射しが暑く感じるほどでした。体育館で行われた「サイエンスマジックショー」には、親子で500名ほど集まり、コミカルなパフォーマンスに会場は大盛り上がりでした。校庭には9つの出店があり、どこにも長蛇の列ができていました。列には親子だけでなく、卒業生の姿もたくさん見られました。「お久しぶりです。」と声を掛け、先生方の周りに自然と輪ができるのも、このイベントのよさであると感じています。片付けをしながら「来年は、〇〇したいね！」という声上がり、来年はどんな規模で行われるかが、今から楽しみです♪



ところで、学校生活を送る中で、子どもたちの成長を感じる場面が多くあります。運動会や音楽会、校外学習（遠足、社会科見学）などを通して、学年という集団の成長を感じられるのは、嬉しい限りです。今回は、個人の成長に着目しました。

毎朝8時、正門前には低学年を中心に、子どもたちがずらりと並んでいます。夏休み前までは、「押さないよ!」「開けるから（門から）離れるよ!」と教員が声掛けをしてから開けていました。それが今は、私の姿を見かけると誰ともなく「一歩下がって〜。」と声を掛け合い、ひと一人分のスペースをとって、開門を待てるようになりました。さらに驚くことがありました。「一歩下がって。」と言われてもずっと門に手を置き、他の子に手を放すように注意されていた日本に来て間もない転入生が、今は門から離れない低学年の子に『とんとん』と教えてあげていることです。雰囲気や状況を察し、それを行動に移しているのですね。



また、校長室にお弁当や職員室に携帯電話を預けに来る子どもたちがいますが、来室する際の挨拶は、社会に出ても通用するほど立派なものです。特に、校長室に入室することはハードルが高く、かつては一緒に付いて来た担任の陰に隠れていた子も、今ではきちんとお辞儀をして、自分の手で弁当を置けるようになりました。

子どもが今までできなかったことができるようになったり、よりよく続けていったりするためには、日頃からポジティブな言葉がけ【「承認」「称賛」】を大切にすることです。例えば、挨拶ができない子どもに挨拶を強要したり、挨拶した行動面を「やって当たり前」と捉えて、言葉がけしなかったりするとその場限りの挨拶となり、身に付きません。今までできなかった挨拶を行動に移せたときに、その事実について言葉で子どもに伝え、やって良かったと思える次へのステップに繋げていくことが、とても重要だと思います。他に例を挙げるならば、学校では掃除や係活動、家庭では生活習慣や手伝いなどが該当すると思います。「気持ちよかったよ。」「助かったよ。」「うれしいな。」「いつもありがとう。」そのような言葉を子どもたちがとった行動へ多く投げかけてみませんか？ **学校と家庭と、一緒に・・・♪**